JET 活躍の現場から

白糠町をバドミントンの町に
～SEAによる新たなアスリートの発掘～

―― 北海道白糠町教育委員会社会教育課

はじめに

白糠町は、北海道東部の釧路市の隣に位置し、春から夏にかけて霧が発生し、低温多湿の気候となっており、秋から冬にかけては晴天が多く積雪が少ないのが特徴で、主産業は、漁業・農業・林業・加工業となっています。

白糠町の SEA

白糠町は、町技として「バレーボール」、「バドミントン」を指定していますが、人口減少に伴うスポーツ団体の減少と合わせて、指導者の高齢化や、なり手不足が課題とされていました。そのような中、語学指導などを行う外国青年を派遣する JET プログラムにおいて、スポーツ国際交流員（SEA）を招致することで、特定種目の指導に関して高度な専門知識を得ることができると考え、このプログラムを活用し、バドミントン強豪国からの指導者の派遣を依頼しました。そうして 2019 年 8 月 19 日付けで、インドネシア共和国の推薦を受け、同国の代表選手として活躍し、カンボジアのナショナルチームのヘッドコーチを務めた経験も持つ、マデ・チャンドラ・ベラタ（チャンドラ）氏が着任しました。

SEA の活動内容

チャンドラ氏は着任後、白糠中学校（現、白糠学園）バドミントン部と、町内の小学生を対象とした白糠少年団の指導に携わることになりました。

①白糠中学校バドミントン部

当時の活動時間は午後 4 時から午後 6 時で、チャンドラ氏は顧問の教諭とともに指導にあたりました。同部は、これまでも地区予選を勝ち抜き、北海道大会に出場するなどの実績はありましたが、2019 年 12 月に行われた新人戦地区予選では、男子団体、男子シングルス、男子ダブルスの 3 種目の優勝を独占するなど、チャンドラ氏着任後は着実に個々の力を伸ばしてきました。

着任翌年の白糠中学校部活（前列中央がチャンドラ氏）

②白糠少年団

白糠少年団は、3 年生以上の小学生を対象としており、練習時間は午後 5 時 30 分から午後 7 時 30 分で、午後 6 時以降に中学校の練習を終えたチャンドラ氏が合流し、指導を受けるという形が続いていましたが、現在は対象を小学 1 年生からとし、中学生と同じ会場と時間で練習するようにしたことにより、SEA が効率良く指導できるようになりました。

少年団の選手も、地区予選会を勝ち抜き毎年、北海道大会へ出場していましたが、チャンドラ氏の指導の下でさらに成長し、多くの選手が北海道大会に出場しています。

③復活した部活動

白糠町立茶路中学校では、2020 年度に 2 名の男子が入部し、しばらく休部状態であったバドミントン部が復活しました。

また、2021 年度には白糠中学校を卒業した生徒が、地元の白糠高等学校バドミントン部に入部したことにより、こちらも休部状態だった部活動が復活しました。チャンドラ氏の指導が、白糠町のバドミントン文化の発展に大きく貢献している証拠といえるでしょう。

復活した茶路中学校バドミントン部

④全国優勝選手との出会い

後に全国優勝を果たす、松下一誠君とチャンドラ氏との出会いは、松下君が小学３年生の時でした。彼が出場した大会をチャンドラ氏が視察したときのことです。小さいけれどフットワークが速く、羽を相手コートの奥深くに打ち返すことができていたのが印象的だったそうです。

松下君は、小学１年生の時に北北海道大会１－２年生の部で準優勝。２年、３年生の時には全国大会に出場するなど、その力量は群を抜いていました。

当時の白糠少年団は、小学３年生から受け入れていたため、松下君は他のクラブチームに入団しましたが、小学４年生の時に松下君の父親が、代表者兼指導者として新たに少年団を立ち上げ、チャンドラ氏の指導を受けることになりました。

チャンドラ氏の指導の効果はすぐに表れ、小学４年生では全国大会ベスト８入りし、５年生では念願の全国優勝を果たすとともに、６年生でも２度目の全国優勝を果たしました。また、現在はジュニアナショナルメンバーU15 に選出され、将来はオリンピックでのメダル獲得も期待されています。

２人目の SEA

2021 年、松下君の小学５年生での全国優勝を機に、白糠町では２人目の SEA の招致に動きました。

チャンドラ氏は上級レベルを担当し、新たなアスリートの発掘を目的として２人目の SEA を招致したところ、2022 年４月 18 日付でヘンドロ・ブディ・スラハマン（ヘンドロ）氏が着任しました。

ヘンドロ氏は、チャンドラ氏がインドネシアで運営するクラブチーム所属のコーチで、チャンドラ氏の推薦を受けて白糠町の招致に応募し、厳しい審査を乗り越えてJET プログラム参加者に決定されました。

現在は、少年団、中学校２校の部活と高校の部活の４つの団体を、２人の SEA が交互に指導しています。

（左）ヘンドロ・ブディ・スラハマン氏
（中央）松下一誠さん
（右）マデ・チャンドラ・ベラタ氏

SEA の着任後は、未経験者の入部により休部中であった部活動が復活するなど、町内のバドミントン人口の増加に影響を与えています。

新たなアスリートの発掘

チャンドラ氏はこれまで、「白糠町をバドミントンの町に」をテーマに掲げ、指導を続けてきました。現在は、少年団と部活動を指導するかたわら、町立こども園でヘンドロ氏とともに、未就学児とバドミントンを通じてふれあう事業に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症による休園などがあり、定期開催には至っていませんが、子どもたちにはとても好評で、次回の開催を楽しみにしている声が聞こえています。今はまだ、シャトルを風船に置き換えて行っていますが、町としては近い将来、全国大会に出場する新たなアスリートが輩出されることを期待しています。

ヘンドロ氏と子どもたち（こども園にて）